



## 「ちがい」を理解し、尊重する力を培う

9月も終わりを迎え厳しい暑さも収まりつつあります。朝夕めっきり涼しくなってきました。と同時に木々の葉も色づき始め、鈴虫や興梟の鳴き声に秋の始まりを感じる季節となりました。さて、秋と言えば皆さんは何を思い浮かべられるでしょうか？芸術、スポーツ、食、読書、、、人によって様々だと思いますが、秋ならではの自然の美しさもその一つだと思います。具体的には紅葉や「月」の美しさがあげられます。今年の「月」の見頃は9月10日(中秋の名月、十五夜)でした。あいにくの曇りで「お月見」はできなかったかもしれませんが、秋の頃の「月」を眺めているととても心が和みます。

また、皆さんもご存知のように、日本では、「月」の模様が「ウサギが餅つきをしているように見える」とされてきました。その理由は、お爺さん(実は帝釈天という神様)を助けるために食べ物を集めようとしたウサギが何も集めることができずに自分の身を捧げたことを哀れみ「月」の中に甦らせたという仏教説話の昔話からきているというのが一般的な理由だとか。そして「餅つき」については、そんなウサギが食べ物に困らないようにと、秋の豊穡を祝いたくさんのお米が穫れたことへの感謝の意が込められているとかがその理由だと言われています。ただ世界に目を向けてみると、どうやらこれは日本や韓国だけのお話で、中国では「薬草を挽くウサギ」や「ヒキガエルの頭と前足」に見えたり、南ヨーロッパでは「カニ」に見えたり、南アメリカでは「ロバ」に見えたり、アラビアでは「吠えるライオン」に見えたりするそうです。宗教や文化、



住んでいる土地の風土や生活等によって見え方は様々ですし、どの見え方もその理由もその通りです。ここで大切なことは、一つの見方にとらわれず、「様々な視点」や「広い視野」から物事を見つめたり理解しようとしたりすることです。そしてそれは、これからの未来を豊かに生きていくために必要とされる重要な力だと考えます。

「月」の模様の見え方に限らず、いろいろな物事を「様々な視点」や「広い視野」をもって見つめたり理解したりしようとする力、つまり、「ちがい」をしっかりと理解し、尊重する力は、本校教育目標に謳われている子どもたちの「豊かな人間性」を育てていくために欠かすことのできない大切な力でもあります。これからも様々な教育活動を通して大切に培っていきたいと思います。

甲南第一小学校 校長 松山 辰也

## ありがとうございました!

熱中症予防や荒天のために外に出ることができない時などに、子どもたちが休み時間を少しでも楽しく過ごすことができるようにと、教育後援会様よりカードゲームやボードゲームを購入していただきました。本当にありがとうございました。校舎内での子どもたちの生活にも少しずつ落ち着きが見られるようになってきました。大切に使いしていきたいと思えます。



【カードゲーム】



【ボードゲーム】

## 「いかのおすし 一人前」

9月9日に防犯教室を実施しました。甲賀署員の方から不審者対応として、「いかない」「のらない」「おおきな声を出す」「すぐにげる」「しらせる」の『いかのおすし』に気を付けて生活することが大切だということを学習しました。

これらに加えて、「一人で遊ばない」「出かける前に誰とどこに行くのか伝える」の『一人前』も不審者対応には重要です。

これから日も短くなってきます。暗くならないうちに帰宅することと併せて、下校後や休み中の過ごし方には十分注意し、自分の命は自分で守れるようになってほしいと思います。

**自分の命は自分で守る!**